

感動をありがとう！

「なでしこジャパン」がついに世界一になりました。

選手、監督はじめチームスタッフの皆さんに、心から「おめでとう！」という言葉を送ります。そして同時に、「感動をありがとう！」と申し上げたいと思います。

先日のスウェーデンとの準決勝戦に引き続きテレビで応援しましたが、サッカーには素人の私でも、出だしはアメリカに相当押し込まれていたように感じています。ゴールを割られるのではと思わせるような危ない場面が幾つもありました。それをチームが一丸となって防いで、前半戦は0-0のまま後半戦に入りました。そして1点を先行されます。しかし、試合時間が押し迫ってくる中、ついに宮間選手がゴールを決め延長戦になりました。延長戦でも先行を許す厳しい闘いでしたが、最後は沢選手がシュートを決めPK戦に持ち込みます。その後の顛末は、皆さんよくご存じのとおりです。

アメリカは、「なでしこ」が過去一度も勝ったことがない相手でした。ですから、相当苦戦するだろうなとは思っていましたが。実際に試合が始まると、アメリカの攻撃は凄まじいものでした。早い段階でナデシコを潰してしまおうという意図が感じられました。それに対して「なでしこ」は耐えに耐え、少ないチャンスをものにした。

沢選手はじめメンバーの皆さんは、日本に金メダルを持って帰ると言っていました。それは東日本大震災で大変なご苦労をされている被災者に寄り添い、被災者の方々に少しでも元気を与えたいという思いと重なるものでした。ニューヨーク・タイムズは「復興への希望の上に築かれた勝利」と報じたと伝えられています。

実際、東日本大震災の被災地の方々からは「自分たちも、頑張らなければと思った」という声が上がっています。私も、そう感じましたし、同じ思いをさ

れた方も多いと思います。7月19日付けの読売新聞「編集手帳」で、「きれいに通った心のパス」と表現していますが、彼女たちの放ったパスは、確かに私の胸にも届きました。

「なでしこ」の選手一人ひとりの勝利への執念こそが、不屈の闘志を呼び起こし、厳しい局面の中でも心が折れることなく闘い抜いた力になったのではないのでしょうか。

小さな子ども達からも「最後まで諦めないで頑張ることが大事だと分かった」というような言葉を聞くと、ただ「頑張れ」と百万言繰り返すより遙かに大きな影響を若い世代に与えたと思います。

日本が勝った瞬間、涙した方も多かったと思います。正直、私も目がウルウルしました。それは、日本が勝ったという喜びというより、「なでしこ」が、逆境の中、ひたむきに闘ってきたその姿に感動したのだと思います。

ワールドカップ終了のホイッスルは、また同時に新たな闘いのスタートの合図でもあります。「なでしこ」には、これからも素晴らしいプレーを通して、私たちに感動を与え続けてくれることを願っています。

優勝おめでとう。なでしこジャパン！

感動をありがとう。なでしこジャパン！

(塾頭 吉田 洋一)